



2002-2003 年度のための

# 地区協議会 国際奉仕部門

2002 年 5 月 18 日(土) テクスピア大阪

## 1. 基調講演

PDG 平岡 正巳



前田ガバナーが第 2660 地区の地区大会に出席のため、この会に出席できないので、国際奉仕のカウンセラーである私がガバナーに代わりご挨拶させていただきます。

ラタクル R I 会長エレクトのお話になりますが、地域大会としては最終のアジア地域大会がバンコクで 1994 年に開かれ、小島さんは S A A として、私は新世代のパネリストとして参加しました。ロータリー研究会ではバックグラウンド・ミュージックが流れ、マイウェイの曲に合わせて美声が聞こえてきました。その声の主がラタクルさんでした。会長部門会ではラタクルさんの幅の広い趣味、政治家として世界的に活躍されていること、日本にも何度も来られている事などが紹介されました。R I 会長として彼に優る人はいないのではと思われます。又、ラタクルさんの考え方の一つ一つが我々の考えと相似たものがある様に思います。

最近、会員の減少が大きな問題になっています。私がガバナーをやっていた時はロータリーの良き時代で、純増 15% も可能でしたが、今は、増強はもとより、減少を阻止するのも

困難な時代になっています。ロータリーは奉仕活動を志すボランティアの集まった組織なので、それを構成するメンバーが減少すると云うことはロータリーの危機であります。R I 会長はその年度毎に増強の必要性を説いて会員を鼓舞し、激励し、ロータリーの危機を回避し更にロータリーの活動を推進していく方針を出されるわけです。ラタクルさんはロータリーの基本的な考え方と言いますか、ロータリーが順調に発展していた時の考え方に沿って色々なことを考えておられるのではと思います。私の感じではルネッサンスと云いますか、復活を考えながら次年度の方針を考えている様に思います。

ラタクルさんの R I テーマは「慈愛の種を播きましょう」と云うことで、ロータリーの奉仕の理想は思いやりの心、思いやりの気持ちを実現していくことです。「慈愛の種を播こう」はこの思いやりの実現をあらゆる場所で、一人一人のロータリアンが実現して行く事を云われていると思います。一つ一つの奉仕は小さいかも知れませんが、その小さな奉仕もうねりとなって集まれば大きな波動として世の中に影響を与えていくのではないのでしょうか。よく「Small Service Is True Service」と云われ、誰でもが出来る小さな奉仕こそ真の奉仕であると、そういう事を奨励している言葉だろうと思います。人間はそれぞれそういう愛を持っているのですから、他人への思いやり、他人への愛、そういう慈愛を我々が広めていく事こそ、今世界に求められているニーズではないかと思います。

ラタクル会長エレクトは目標設定のために大きな目標を大上段から掲げないで、指導方

針ではボトムアップの方式で実現していく事を訴えています。ロータリーのリーダーシップは企業とか他の組織と少し違ひまして、権限は無いが責任はあります。これはまさしくボトムアップの形式のなかで言える大事なリーダーシップの形態ではないでしょうか。国際奉仕の委員長さんは自分で意図されていることの計画目標を実現しなければなりません、それを実現するためには色々な条件整理もあるでしょう。それを実現する責任はあるのですが、権限は無いのです。

私はラタクル会長エレクトが出されている方針は、まさしくロータリーの真の姿と云いますか、ロータリーの神髄から出てくる事を示唆されていると思います。慈愛の種は条件

の良い所に播かれる種もあろうし、又そうでない場合もあるかもしれませんが、その種は非常に頑強であるといわれ、私はそのような条件の悪い所に播かれた種は特に耕す必要があると説かれている事に感動を覚えました。我々ロータリアンはそのような種をはぐくみ、育てる努力をしなければならないと思います。そのような中で実った収穫がなされる。ラタクル会長は 2002～2003 年我々の慈愛と誓約と行動が育まれた時にはその大きな収穫を得るだろうというふうにおっしゃっておられますけれども私はこれが実現すると云うことはこの年度だけの収穫ではなしに、ロータリー全体が見直され、我々が夢見ている真の姿に戻ると思います。

## 2. 次年度の活動方針について

DGE 小島 哲



現在のRI会長キングさんは甲高い声で、自分の演説に酔ってお話になられる方で聞いているだけで疲れますが、次年度のラタクルさんは訥々と話され、話かたからして我々と相通じるころがありました。ラタクルさんの運営方針は本日の資料の6ページ以降に載せています。会長部門でビデオを差上げていますが、その音声部分が6ページからの部分です。

私は「ロータリーは大したものだ」と思いますのは、会長がキングさんからラタクルさんになることでやり方が非常に違ひますが、

それを容認できる組織であることと云うことです。会員増強にしてもキングさんは純増5名と云うことでありましたが、ラタクルさんは「増強は大切だが、どんな増強をされるかはクラブの皆さんで考えてください。クラブによっては、増強はしないで現状維持でやりましよう」と云うならそれもよし、1名だけ増強しますよと云うならそれもよい。どの様な活動をすればクラブのためになるかは貴方が一番よく知っていらっしゃるはずでありますから、私は何も申しません。」とこの様なスタイルでありまして、クラブの会長・理事・役員の方々にとっては非常に重い責任を覆いかぶせられるように感ずるスタイルだと思います。

是非お願いしたいことが四つございます。

一つ目は増強であります。人数が減っているのを増やそうと云うことです。2640地区でも増強はガバナーがあれこれ云うより、クラブの皆さんが増強は大事だと言うことを重々ご存じですので、私が大きな声で増強、増強とは云いません。どの様な増強状態になっているかはガバナー補佐の皆様から報告をしていただけるようお願いしています。

二つ目はポリオ撲滅の問題です。ロータリー財団の時に詳しくお話しますが、この運動を始めたとき、世界で一年間 50 万人いた発病者が現在では 480 人にまで減っています。しかし、これに満足してはいけません。一人でも発病者がいますと再び繰り返す恐れがあります。発病が無くなって 1 年間はサーベをして、もう一人の発病者も出ないことを確認して始めて撲滅という目標が達成できます。そのためにお金が足りないのを何とかして欲しいと言う話です。2640 地区は財団の寄付を多額いただいていますので、そのうちの一部をポリオの方に廻して戴くことを会長部門会議で了承していただいています。

三つ目は識字問題です。例えばポリオに関する掲示板を出しても文字が読めないのではその効果が上がらない。特に女性が多いので、これを何とかしたいと言うのがラタクルさんの思いです。次年度の地区社会奉仕委員会は何もしないですから、各クラブでやってください。各クラブで何かのプロジェクトをやられる時にスムーズに事が運ぶように、地区委員会はお手伝いするのが次年度の方針です。識字問題ではこんなプロジェクトがありますから、皆さんのクラブで考えてくれませんかと言う提案をさせていただくつもりです。

最後は職業奉仕の事です。ラタクルさんが強調されますことは、IT に関した少人数で経営している所もあるので、そういう所にもロータリークラブへの入会を勧めてほしい。職業分類を見直して、そのような人がいらっしやれば声を掛けて下さい。

これらラタクルさんの方針に対し 2640 地区で何をするかですが、奉仕活動はあくまでクラブ中心にやられるものであって、地区があれこれお膳立てをするようなことはしません。クラブ主導型でお願いします。しかし、財団・米山の奨学生、GSE 等はクラブの方では出来かねるところがありますので、その部分は地区が中心になってやります。地区としては、これこれの奉仕活動がありますがそれに乗ってくれるクラブはありませんかとお尋ねしますので、クラブでマッチすれば参加をしていただきます。その結果こうなりまし

たという報告は致しますので、会員にお知らせください。

増強は大切なことですが、それよりもすべての会員にロータリーに入会してよかったと思っていただけるようにするには、クラブとしてどの様にすれば良いか。ロータリーでは親睦と奉仕が二つの柱だと云われています。親睦を中心にやられるか、奉仕に力を入れて頑張るか、その辺を旨く調和させて、会員皆にロータリーに入会して良かったと思われるクラブを作っていただきたい。そのために地区としてはどうすればよいかを一生懸命考えています。

地区協の国際奉仕部門の会議ですが一つ気に入らないところがあります。それは財団・米山部門を別にするという事です。クラブでは財団も米山も国際奉仕部門に入っています。ですからこの席で財団も米山も同時にやらないといけないのですが、残念ながら時間的に無理があり出来ないのです。財団も米山も委員会が 4~5 つあり、一度の時間でこなすのは無理なので、国際奉仕の理事さんは財団も米山も纏めて理事としての仕事をしてほしいと思います。

ポリオについて、先程もお話しましたが、ロータリー 100 周年記念事業であるポリオ撲滅の宣言を 2005 年にするためには来年の 9 月末までに発生をゼロにし、その後サーベをして発生がないのを確認して、ポリオ撲滅ができたと言えます。WHO, ユニセフ等が集まって、そのためには何が必要かを話し合ったのですが、10 億ドルの資金が不足して要ることがわかりました。各国政府などの寄付もありますので、ロータリーは 4 億ドル集めてくれないかという話になりました。4 億ドルは大金ですがラッキーな援軍がありまして、ロータリーが 1,000 ドル集めると、ビルゲイツ財団が同額の 1,000 ドルを出してくれ、その合計の 2,000 ドルに対し世界銀行が 1.5 倍の 3,000 ドルを出してくれるという話になりまして、ロータリーの 1,000 ドルが 5 倍になります。ロータリーは 4 億ドルの 1/5 の 8,000 万ドルを集めればよいのです。全世界のロータリアンが均等に負担すると 67 ドルになる

のですが、過去の実績から日本には倍の 130～140 ドルを負担願いたいということです。今の経済情勢では新たに 140 ドルの負担をお願い出来ませんので、毎年 220～230 ドル戴いています財団の寄付のなかから 140 ドルをポリオの用途指定寄付として出していたきたいと会長部門でお話し、承認を得ました。財団に対する一般寄付が減りますと、3年後のDDFが少なくなって、財団奨学生数が減りますが、試験にパスしても辞退される方もいますので、姑息な手段ですがその分を3年先に廻そうと思っています。

青少年交換が有意義だと思うクラブは近くの学校に行ってそのPRをしてください。交

換ですから受入れもお願いして下さい。詳しいことをご存じ無ければ地区の方で同行させていただきますので、クラブの方でそのような働きかけをしてください。直接地区から高校のほうにアプローチすることはしたくないと思っています。また、受け入れ先の高校もクラブで決めていただきたいと思います。学校と直接お話になられ、青少年交換をやるかやらないかを決めてください。

奉仕活動は各クラブでプロジェクトを考えてください。地区はいっさい何も申しませんので、そのことを頭に止めていただきまして次年度の計画を立ててください。

### 3. 国際奉仕について

PDG 平岡 正巳

入会された会員を定着させるための一つに国際奉仕があると思います。青少年交換と国際奉仕にはロマンがあると思います。成果が直ぐにあるというものではありませんが、我々が奉仕した活動が実っていくと云うことがあります。「慈愛の種を播こう」と云われています。国際奉仕活動を盛んにするに従ってクラブの魅力が出てくると思います。

「ロータリーとは人道的な奉仕を行い、あらゆる職業を通じ高度な道德水準を守ることがを奨励し、かつ、世界における親善と平和の確立に寄与することを目指した実業人及び専門職業人が世界的に集まった団体である」と云うことです。世界的な団体であるから、国際奉仕活動に力を入れて貰える余地があるなら、その方面に力を入れて下さい。

究極的には世界平和を目指しているのですが、ロータリーの世界平和達成のためのアプ

ローチの仕方なのですが、人的交流が主体となります。財団にしても人道的、あるいは教育的プログラムを通じて人的交流を広げていきます。1988年広島で世界平和会議があり、その席で「ロータリーの世界平和へのアプローチの仕方は手ぬるい」との問いに、アビー会長が答えて曰く「ロータリーの世界平和の達成はあくまでも人的交流にある」と云われた。

WCSの寄付の送り先からの返事の有無のお話がありましたが、物を寄付したり、金を送ったりするのが主体ではなくて、現地に赴き人的交流を通じて協力していくと云うのが一つのポイントではないかと思っています。青少年交換、財団、米山、GSEすべてに当てはまります。世界社会奉仕もただ金品だけを出すことだけに終わらず、その後のケアが必要です。

## 4. クラブ主導型の奉仕活動

研修リーダー P D G 中村幸吉



次年度は変わります。国際奉仕活動をクラブ主導型にしたい。国際奉仕、WCSにしても終わったときのお顔は輝いてみえます。これはプロフィッツを得られたのだと思います。しかし、それをするには経済的な、時間的な、体力的な負担を伴ったことと思います。その奉仕活動がどういう成果を上げたか、それに対する認識、この三つのバランスがとれたときにはじめて、奉仕活動をしていて良かったと思うのです。どれかが狂うと不満が残ります。この不満も自分たちの意志でやったのならある程度和らぐが、地区からの押し付けだと倍するものがある。国際奉仕活動で困るのは効果がハッキリ掴めないと云うことで苛立

ちもある。解決方法の一つとしてクラブが自主的にやったんだという事で進めていただきたい。自分たちの意志でやったんだから、自分たちで良きにつけ、悪しきにつけ責任を取ると云うことで進めていただきたい。

各クラブは自分たちのクラブの実情にあったプログラムを選択し、活動に邁進して下さい。

WCSは手続要覧の 85 ページを読んでください。WCSをするための把握が基本的に難しい。奉仕活動の後始末も難しい。ロータリーの奉仕活動は出来るだけ単年度で行いたい。クラブの方でこれをするにはどんな事が必要か色々調べてみて、地区に援助を要請するなら、地区が手助けをするのが、地区委員会の役目です。

青少年交換は地区役員の専門制がなされている。地区青少年ファンドの支出の問題ですが、財政面から見ると地区予算の 20% の 1,000 万円が限度と思い、青少年交換の人数は 15 名が限界だと思う。ホスト・ファミリーのご苦勞は大変で諍いさえ起こりうる。

最後により望ましい国際奉仕に問題点を洗い出していただいて、地区に対しておかしい面がありましたら、指摘して下さい。

## 5. 世界社会奉仕

豊澤 洋太朗 世界社会奉仕委員長

世界社会奉仕 (WCS) は 2 カ国の RC が力を合わせ、援助を必要としている組織や人々に手を差し延べ、組織や人々の要請に応えたとき、世界社会奉仕のプロジェクトが誕生します。地区としてはプロジェクトがあれば報告致しますので各クラブでマッチングするものがあれば申し出てください。次年度はクラブ主導型でお願いします。姉妹クラブの

プロジェクトにのるとか、ガバナー事務所に世界の各地区からの依頼がありますから、何ドル位のプロジェクトかを聞かれ、クラブに見合ったプログラムを選んでいただければと思います。人道的なもの、中古のパソコンを等色々あります。

世界社会奉仕に参加するメリットは国際理解を推進することにあります。二国間で取り

組むプログラムであるから広報がしやすく、ロータリーのイメージアップに役立ちます。

ルセナRCは失明率の高い地域の犠牲者や栄養失調に絡む眼病やその他の予防可能な視力の補正に苦しむ子供達のためにイタリア、カナダ、インド、米国等のRCと協力して取り組んだ成功例です。WCSのパターンとして二つの方法があります。同額補助金の制度を利用する場合（難点は時間がかかり過ぎる）

とRCで資金援助をする場合（2～3ヶ月で済む）です。

世界社会奉仕関連の情報源としてはインターネットウェブ・サイトからのダウンロードの方法やビデオ「活動する国際奉仕」等があります。

次年度の国際社会奉仕はあくまでもクラブ主導型でお願いします。

## 6. 青少年交換について

井谷 功 青少年交換委員長

青少年交換の目的は年若い高校生が親許を離れ、全てが違う異国の環境のなかで、困難と戦いながら、その国の言語、人情、風俗、習慣、文化、歴史そして社会の仕組み等を学び、外から見た日本を認識すると共に、正しく日本を紹介し、感謝の気持ち、人への思いやりの精神を養い、ひいては国際理解と国際親善の促進により、世界平和への架け橋になることです。

未来は若者の肩に掛かっています。ボーダレスの世界になっている今、高校生達は異文化を体験し、ボーダレスを身を以て感じて欲しい。交換学生は日本と外国のための友情の架け橋となり、小さな親善大使と云ってよいと思います。彼らが海外へ行って見たいと思う気持ちは非常に強く、24ページのアンケート

トでは19クラブが彼らにチャンスを与えてもよいと思っています。75クラブ中19クラブです。少し宣伝が足りないかと思っています。

18年間で300名以上の派遣、受入れをしてきました。次年度は15名の派遣、15～17名の受入れです。かつては英語圏の希望者が多かったのですが、近年ではアジア地域への希望者も増えています。留学したい高校生がいる近辺のRCがスポンサー・クラブになってあげて下さい。各IMで1～2名の派遣が出来ればと思っています。

派遣学生にも、ホスト・ファミリーにもオリエンテーションをしています。地区委員が相談にのります。21世紀を荷なう高校生達に、どうかチャンスを与えて下さい。

和田 康 青少年交換委員会顧問

青少年交換の目的は年若い高校生が親許の暖かい庇護を離れ、全く異なる異国で色々な困難を乗り越え、その国の風俗、習慣、文化、言語等を学びながら、外から見た日本を認識し、正しく日本を紹介し、その中で人に対する感謝の気持ち、思いやりの気持ちを学んで、国際理解と親善に貢献して、世界の小さな架け橋の一端を荷なうことであります。

毎年、この子が行って大丈夫かと思う子が

いますが、一年たって帰ってきた時の立派に成長した姿を見た時は感動します。同じ一年でも、親許で暮らす一年と異国で暮らす一年では意味が全然違うと云うことです。知らず知らずその国に馴染もうとしているうちに身に付いてくるものがあります。親のアンケートでは態度がデカクなると出てきますが、自分の思うことをしゃべれる様になったためと思います。

ホスト・ファミリーの問題があります。受入れ側としては3~4の家庭が必要です。その受入れ態勢が難しいのですが、我々としてはただ奉仕をするという気持ちでやっていただきたいと思います。以前の経験ですが、どこも受け入れてくれる所がなくて困り果て、無理を承知で米国のロータリアンにお願いした

ら、「その子を受け入れないなんてロータリアンでない、私が全責任を持つから」と云って下さった。私達もその様に出来るだけのことをしてあげたい。クラブ主導型ということで、少し考え方も違って来るかも知れませんが、今後ともよろしくご協力をお願いします。

## 7. 世界大会について

糸井 徹 世界大会実行委員長

次年度世界大会はオーストラリアのブリスベンで2003年6月1日~4日まで開かれます。2640地区のジャパン・ナイトを2003年5月31日に行います。

オーストラリアについてのビデオを作り、各クラブに二本ずつ配布して、家庭にて家族

で見て欲しい。

オーストラリアの便は非常に少ないので、コースを多くして参加の機会を作りたい。ジャパン・ナイトには全員参加型にしたい。

今年の十月末までに予めの人数を把握したい。

## 8. 質疑応答



Q：和歌山東の野井さん

交換学生が日本を敬遠しているように思いますが、何故か、考えたことはありますか。私は日本の教育制度に問題があると思います。RCで教育問題を提起しましたが、政治的だからと云われました。今年IMで中条高德さんのお話を聞きなるほどと思いました。日本の学校教育では日本人の魂は何処へ行ったのか、と云う教育をしているので、日本に来て学ぶべきモノがない。ロータリーはもっ

と真剣に教育に取り組んでいただきたい。お金もかからないことですし是非お願いします。

受入れの問題でも日本の家族制度はどんどん崩壊しています。ジェンダー・フリーが罷り通っていますが、これもロータリーで取り上げていただきたい。

A：小島エレクト

教育問題につきましては、次年度ガバナー会が取り組もうではないかということで、先週各会長宛に賛否のアンケートをお願いしていますので、是非お読み願ってお答えを出して下さい。

青少年交換は高校生でして、日本に来て勉強を主眼にしているのではなく、日本人がどんな生活をしているかを体験して貰うのを目的にしています。テストの時は休みだと思っている。米山とか財団の奨学生は勉強をしようとして来日しています。高校生と大学生の差はあるだろうと思いますが、野井さんの意見は正論だと思います。以前にオーストラリアから小学校で日本語を教えている人が来ら

れたことがあります。金野さんは留学先が英国志望でしたが、オーストラリアに決まってガッカリしていたのですが、今では大変なオーストラリア・ファンになりました。ロータリーの仕事も手伝ってくれています。

Q；中村PDG

和田顧問、地区の青少年交換委員長をやっていたのですが、日本の経済力が下がっていますが、相手先の高校生に何か影響はありますか。

A：和田顧問

今までは志望先として5位くらいだったのですが、今は第一志望の方が多くなっています。

Q：

瀋陽の事件で、あの外交官の対応はどうか、日本の最高学府を出た人達ですよ、ロータリーとして何か考えはないですか。

A：平岡PDG

インターアクト・クラブでジアイ会長の時、インターアクトの表敬訪問が関西47クラブで行われた時のパネリストで活躍した加藤君が、東大の法学部を今年卒業したのですが、外務省に入った。彼はインターアクトで学んだことを心に置いてやりたいと云っています。何らかの機会があればお話しをしていただきたいと思っています。

Q：

青少年交換の意義はよく分かるのですが、負担が多いのでブーイングが多い。その点について何か解決方法は有りませんか。

A：

ある時期までは、ゴー、ゴー、ゴーという形でやって来ましたが、一人でも多くと思い27名派遣した事も有りましたが、予算の関係から15名位が適当ではとなりました。

私達は大人ですので、感情的に走らないで、時代を冷静にみてバランスの取れた活動をして、喜んで参加できる方向に地区も向かいつつありますので、若干のブーイングは押さえつけてあげてください。委員長達は一生懸命やっていますから。手続要覧の109ページに新世代交換のプログラムが有りますが、これは面白そうなので詳しく調べてみたいと思います。

A：小島ガバナー・エレクト

私の年度15名受入れで、一人100万円として、1,500万円かかります。地区の全ロータリアンで負担すると一人5,000円になります。これですと100万円ずつをクラブにお渡しして、これでやって下さいと云えば済むのですが、現在は40~50万円を援助しているだけです。これがもう少し必要であるなら、新たに地区の青少年ファンドとして分担金を増やすしかないと思います。15名受入れなら1,500万円いりますし、10名なら1,000万円必要で分担金3,000円アップになります。資金面で云いますとこういう事です。私の年度では青少年交換のための新たな負担は求めません。新世代のファンドから幾らか出すと云うことに成ります。新世代のファンドは一人3,000円ですので、900万円位なので、15名に全部当てたとしても一人60万円にしかありません。しかし、全額を青少年交換には使えませんので、そこそこの援助しかしてあげられないのです。

## 9. 講評および閉会の挨拶

PDG 平岡 正巳

正直なところ、小島エレクトはえらい事を計画されたと内心思っています。私は地区協に初めて出席したのですが、なるほどこういうことを意図されていたのかと思いました。

素晴らしい協議会でした。今までの協議会の中で最高であったと思います。ガバナー・エレクトは自分の年度の研修会ですのでよいのですが、ガバナー補佐の皆さんが毎回ほとん

ど出席されているとお聞きし、これまた、大変だと思いますが、それだけの値打ちのある協議会で行いました。特に中村研修リーダーが眠気を心配されていましたが、地区委員の皆さんの説明も最高の説明でよく分かったので質問も少なかったと思います。

世界社会奉仕委員会ではクラブ単位で事業を行い、地区委員はサポーターだという事で、この事が実際に行われると、2640 地区は日本一の地区になりえます。そのように皆さん自信を持って云われても間違いありません。

青少年交換でございますが、野井さんから非常に厳しい質問がございました。何の反論も出来ませんが、ロータリーは素晴らしい青少年のプログラムを持っています。それに出るだけ沢山参加されますように、皆様で協力していただく、これまた、自信を持っていただいたらよいと思います。

2640 地区はよい地区なのだという感覚を一般会員が持たれているか、どうかに多少の疑問を持っています。自分のクラブで何をしているかをご存じない会員がおられる。まして地区で何をしているかも分からない。会員の皆さんに徹底して伝える伝達の難しさを感じ

ブリスベンでの世界大会の説明も良く分かりました。オーストラリアとは時差がありませんので楽だと思います。地区大会と同様に、世界大会でも最終日の最後には大阪の宣伝をしなければならぬと思います。又、蛍の光の音楽と共に隣の人と肩を組みながら、来年の再開を約束すると思います。中央のスクリーンには「See You In Osaka」と写し出されると思います。ロータリーに入会してよかったと感動を覚える一シーンであります。

本当に素晴らしい地区協議会でした。心から敬意を表します。皆様方も最後までご苦労さんでございました。来年度の成功を心から祈念しまして、閉会の挨拶とします。ありがとうございました。

DGE 小島 哲

ます。私の年度ではそれを少しでも矯正して行きたいと思っています。

本日はお休みのところ、長時間ありがとうございました。全力投球いたしますので来年度一年間よろしく願います。